

令和3年春・秋の受章者

黄綬褒章に久保山英明氏 消防機器協会が伝達式で褒章授与

コロナ禍が続く影響を受け、消防庁主催による令和3年春及び秋の褒章受章者への伝達式は開催が中止されていました。先頃、日本政府による緊急事態宣言が全国で解除されたのに伴い、消防庁に代わり、消防機器関係功労者の推薦団体である一般社団法人全国消防機器協会（会長・金森賢治氏）が主催して、12月3日午後、令和3年春及び秋の黄綬褒章受章者計7名に対する伝達式が東京・千代田のアルカディア市ヶ谷の富士東の間で開催されました。

令和3年春の黄綬褒章受章者は4名。うち、伝達式への出席者は次の2名でした。順不同。

▼久保山 英明氏（デンヨー株式会社取締役相談役＝春の受章当時、一般社団法人日本内燃力発電設備協会元理事・副会長）▼重盛 弘子氏（エム・テー工業株式会社代表取締役）

令和3年秋の黄綬褒章受章者は3名。伝達式への出席者は次の3名でした。順不同。

▼藤倉 大樹氏（藤倉電気工業株式会社代表取締役社長）▼中川 茂氏（株式会社モリタテクノス代表取締役社長）▼上田 勝也氏（上田消防建設株式会社代表取締役社長）

伝達式に登壇した金森氏は「令和3年春及び秋の叙勲において黄綬褒章の榮譽に浴された皆様は長年に渡り、消防機器の製造・販売事業に従事され、消

防行政・関係企業の発展に尽力された方々です。ここで、令和3年暦年に受章され、本日の伝達式に出席されました5名様方のご功績を披露させていただきます」と述べました。

そのうち、「久保山英明氏は、停電時のバックアップ用電源として使用される非常用自家発電装置及び、災害復旧現場や土木・建設工事現場で使用される可搬形発電装置の開発・製造・販売に努められるなど、消防用設備等向けの非常用電源の安定供給を通して電力供給に貢献された功績は大きい」と紹介しました。その上で「特に非常用自家発電装置の通気・排気構造について低騒音化・雨水の侵入防止・風圧の低減化を始め、技術開発・各種改良を達成され、高度な機能を備えた製品化の実現に尽力されました。装置の設置後のメンテナンスにも注力され、多数の年間保守点検契約を確保され、電力を安全かつ確実に供給できるよう寄与されました」と述べました。

伝達式では金森氏から、出席された黄綬褒章受章者5名に対し勲章と表彰状が授与されました。式典後、同じ会場で記念写真の撮影が行われ、続いて全国消防機器協会会長・金森氏、同副会長・伊藤龍典氏、同副会長・遠山榮一氏、同常務理事の鈴木和男氏、事務局の6名、出席された黄綬褒章受章者5名と随行者12名を交えた全員で懇談が行われました。



（上段から時計回りに）前列左2人目久保山英明氏。挨拶する金森賢治会長。随行者右は藤本庄一郎氏。褒章を授与される久保山氏。平野正樹内発協会長㊤